

栗原市の荒戸沢ダム崩落の現場



栗原市荒戸沢ダムの大規模地すべりは頻繁に報道されましたので、記憶されている方も多々あると思います。

ひらかわ・あらた
昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。3代目のサン・ファン館館長に就任した。



宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

ひらかわ あらた
平川 新

未来への航路

内陸地震のあった日

2008年6月14日朝、大きな地震が発生しました。岩手・宮城内陸地震です。仙台市は震度5レベルでした。ちょうど玄関にいたのですが、屋根の瓦が崩れ落ちてくるのではないかと思うほどの揺れでした。

震源地に近い栗原市は震度6強。被災家屋は栗原市や大崎市を中心に約2600戸でした。犠牲者は23人、負傷者は426人でした。死者のうち土石流や落石の犠牲になった人は11人。山間部で発生した土砂災害の犠牲者が多かったのです。

栗原市荒戸沢ダムの大規模地すべりは頻繁に報道されましたので、記憶されている方も多々あると思います。

すぐに大学に出勤して、被災地に向かう準備を始めました。大学図書館から栗原市や大崎市の自治体史や文化財報告書を借り出し、古文書や文化財を所有している旧家をリストアップする作業に取りかかりました。このリストを手がかりに、被災地の視察とレスキュー活動をするためです。日曜日でしたが、文学部日本史研究室の同窓会の開催日だったので、登校していた学生たちの手を借りてリストアップ作業を進めました。

⑫ 岩手・宮城内陸地震と運命

リスト作りが終わった夜9時ごろに、携帯電話が鳴りました。連

載⑨で紹介した栗原市ランナーです。栗原市のくりでん資産活用検討委員会担当の職員で、務めていましたから、

「今朝の地震で栗駒山の駒の湯が土石流にのまれ、犠牲者が出ています。じつは委員の麦屋弥生さんと岸由一郎さんがそこに泊まっていた。まだ見つかっていません・・・」。

運命の口

背中がゾクゾクして、足ががくがくと震えました。体がこんな反応したのは初めてのことでした。じつは私も、その駒の湯に泊まっていたかもしれないからです。

地震前日の13日に栗原市若柳の旧くりでん本社で、くりでん委員会が開催されたのですが、前回の委員会のごきに麦屋さんから、次の委員会のことと栗駒山の秘湯に行きませんかという誘いをいただいていた。東京在住の麦屋さんは、全国で活躍していた観光ブ



2008年6月13日のくりでん遺産の保存活用検討委員会。左端が岸由一郎さん、右から2人目が麦屋弥生さん。中央が筆者

東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26-31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。